

令和6年度第1回茂原市地域公共交通会議 議事概要

日 時 令和6年6月20日（木）
午前10時から午前11時40分まで

場 所 茂原市役所5階 502会議室

出席者 委員 19名

深山委員、鶴野委員、村川委員（代理：影山）、三橋委員、清水委員、成田委員、高山委員、平見委員、丸岡委員、平井（きよみ）委員、鈴木委員、白土委員、小林委員（代理：佐川）、伊藤委員（代理：山村）、佐藤委員、平井（仁）委員、白井委員、大久保委員、藤井委員
事務局 5名
都市計画課 白鳥課長、錦織補佐、江澤係長、小関副主査、酒井主事

会議内容（進行：錦織補佐）

- 1 開会 午前10時
- 2 都市建設部長あいさつ
- 3 委員紹介
- 4 会長の選任
- 5 副会長及び幹事の選任
- 6 議事

（1）デマンド交通「ふれあい」・市民バス「モバス」の利用状況について

<質疑>

委 員： 乗合率の低さが課題であるとのことだが、前回の会議でも乗り合いを前提としてサービスの提供を行わないと問題であると意見を挙げた。乗り合いが発生しない原因について把握しないと改善が出来ない。資料を見ると登録者数は増えているが、実際の利用者数は減っている。移動スーパーの運行により、暮らしの仕組みが変わったことによる減少は理解できるが、80歳を超えると外出機会が極端に減少する傾向があるので、年齢構成と利用率の関係はしっかり把握しておく必要がある。前回の会議では、デマンドエリアの住民は乗り合いを避けて予約を取るといった風潮があるとの報告があった。そもそも乗り合いタクシーであるとの認識を持つまでに至っていないという状況であるので、今後の対策としてどのような検討がされているのか。例えば、通院や買い物あれば、病院の時間や買い物時間に合わせて利用するパターンがある。

他の自治体では、買い物の場合であれば10時発で2時間後にピックアップするといった買い物支援に特化した移動サービスを提供しているところもある。買い物や通院といった目的がある中で、乗り合いを発生させる仕組みについて、どう考えるか検討してもらえればと思う。

もう1点。60歳以上の利用者が90%を超えているというデータがあるので、地域に密着した交通サービスであると言えるが、収支率を見ると厳しい状況であると感じる。ただし、以前と利用者が変わらない、あるいは増えているにもかかわらず、最近の人件費や燃料費の高騰により、収支率が下がってしまい、悪い評価を受けてしまうことがある。それが本当に正しい評価なのかを指摘したこともある。以前の運行委託費をベースに収支率に評価する方法も考えなければならないと思うので、検討をお願いしたい。

質問としては、なぜ乗り合いにならないのか、乗り合いにならないことをどこまで問題として抱え、今後それをどう検討されようとしているのかお聞きしたい。

事務局： なぜ乗り合いにならないのかについて、詳細な調査は行っていない。今後は、原因を究明し、乗り合いが進むように取り組んでいきたい。

委員： デマンド交通は週3日の運行であり、毎日運行に比べ、利用が制限されているにもかかわらず、乗り合いが発生しない状況になってしまっている。そもそも、需要に対して供給が過多になっているのかもしれないので、そこに1歩踏み込んでいくのか。もしくは、需要をまとめて、利用目的別に運行する仕組みをつくるのか。いずれにしろ、目的意識を持って取り組まないと、このままの状態が続いてしまう。地域の方々の現状を把握した上で、もし、乗り合い出来ない仕組みがあるのだとしたら、タクシー事業と変わらなくなってしまう。意識を持って取り組んでいただきたいと思います。

会長： 「乗り合い」タクシーなので、乗り合いが進むように、地域の方々に周知を行ってもらえればと思う。

委員： 採算の合わない市民バスの運行をなぜ続けているのか疑問である。利用者数も1日当たり80人程では話にならない。採算ベースに合わない市民バスは、抜本的に見直す必要がある。他の自治体では、地域別に小さなバスを運行しているところもある。市民バスを運行するとしても、拠点となる場所を通して循環するルートを構築する必要がある。検討してもらいたい。

事務局： 市民バスについては、交通計画に記載のある通り、利用者の少ない北部コースをデマンド交通へ転換するなど、再編について交通会議を通して検討したいと考えている。

委員： 市民バスについて、目標値に達していないと説明があった。市民バスとデマンド交通は交通計画に基づき今後、見直すと話があったが、見直しの時期について、どう考えるかが重要であるが、計画には必ず実施した内容を評価するタイミングがあり、令和8年度に中間評価が実施されることとなっている。今は令和6年度の6月の下旬である。路線バスを見直すとなると、ルートの調査や安全性の確認、バス事業者の既存の事業との調整や利用者の増加に繋がるか等、交通会議にも提案してもらいながら、検討が必要になる。1年近くの期間を要することになると思う。バス事業とも調整を図りながら、計画的に進めていただきたい。中間評価の際には、市民にもわかりやすく説明できるようにしてもらいたい。

もう1点、デマンド交通の乗合の実績が伸びないということについて、私の個人的な感想になるが、交通マップにデマンド交通のことが記載されているが、乗合についての記載が「乗合のため、送迎時間は希望時間にならない場合があります。」の一文しかない。交通会議では乗合率を向上させるために議論しているので、そういう考えがあることを市民の方々に示すために、

乗合で乗ることが想定された乗り物であると付記してもよいのではないかと思います。交通マップの最後には「ふれあい到着後、5分を経過しても乗車されないときは出発する場合がございます。」の記載や先程の送迎時間のことなど、マイナスイメージの記載はあるが、そもそも『ふれあい』は乗合を前提としたものであり、そういった利用をお願いしますというような記述を追加してもよいのではないかと。1つの意見として参考にしてもらいたい。委託先のタクシー事業者にも、乗合が増えるような配車の方法等について依頼するのも1つの方法だと思う。

事務局： 貴重なご意見ありがとうございます。デマンド交通の名称である『ふれあい』についても、乗合を意味しており、地域の方々が『ふれあい』を通して繋がりを作るといった意味を込めた名称になっている。先程、会長からもあったとおり、周知方法を見直し、乗合の向上に繋げていきたいと考えている。

委員： 少し議題とずれるかもしれないが、先日、アド街ック天国で茂原市が取り上げられ、翌日から茂原駅にも問い合わせが殺到している。こういったことをチャンスと捉えて、モバスや小湊鐵道さんの路線バスなども、駅前に案内板を出すなどしてもらえるとありがたい。駅には目的地までどうやって行けばよいのかの問い合わせが多くあり、バスを案内したり、バス停から遠い場所はタクシーを案内している。そういった状況であることは、この場を借りて情報共有させていただく。

会長： テレビで放映されるのは重要だと思う。茂原市には、こんなところがあるんだと知ってもらうためには、少しオーバーにやってもらうぐらいでよいと思っている。

事務局： 他部署にはなるが、本市としてもシティプロモーションを強化して、茂原市を強くアピールしている。関係機関と協力しながら、地域の活性化に努めていきたいと考えている。

（２）茂原市地域公共交通会議令和５年度決算及び監査報告について

<質疑>

委員： 資料２の下段の補足説明について、国庫補助金について記述があり、補助対象にも関わらず内示額が０円だったことの説明をお願いしたい。議事としては決算の承認で、この後予算があるが、今後の予算にも国庫補助金の活用は重要であるので、これが活用できるのかどうかは次の議題でも重要になってくるので、０円になったことの対応と、今後の茂原市の方針を説明してもらえれば、委員の方々の理解も深まると思う。

事務局： まず、この国庫補助金は交通計画を策定する際に国から交付される補助金となります。交通計画は１年目で各種調査を行い、２年目で策定するといった２ヶ年かけて策定するのが通常であり、茂原市も２ヶ年かけて策定した。１年目、２年目それぞれに対して国庫補助金が交付されることになっており、１年目は国庫補助金が交付されたが、２年目には申請したが、交付されなかった。交通行政の担当者間では、２年目の国庫補助金は交付されないことが多いという共通認識がある。１年目を優先する傾向があるようで、茂原市も結果的に０円という内示であった。今後、交通計画を見直す際には活用することになると思うが、しばらくは活用の予定はない。

委員： よく分かった。２年目が交付されにくいというのは国の担当者に聞いたのか。

事務局： 交通計画を策定された他の自治体の担当者にそういった話を聞いた。

委員： 国の担当者に聞いたのではないことは理解した。公的な事業を進める際に、国の補助事業の

あるなしで大きく変わることもある。過ぎたことは致し方ないが、国庫補助が得られなかった理由は担当者に確認したほうがよい。2年目であっても補助率を下げて交付されることもある。私は他の自治体でも委員を務めているが、0円というのは少ない。茂原市がなぜ0円だったのかは、理由を確認し、今後こういったことがないように事業を進められるようにしてもらいたい。

会 長： 本案について賛成の方は挙手をお願いします。全会一致ということで、設置要綱第7条第4項の規定により承認されたものとします。

（3）茂原市地域公共交通会議令和6年度予算（案）について

<質疑>

委 員： 予算額0円は、説明のとおり理解した。交通会議は今後も続いていくので、予算としては0円だが、令和6年度に何を行うかの事業計画（案）を示してもらいたい。交通計画を見てもうと、令和6年度については実施事業はなかったとしても、全く何もしないわけではないので、茂原市の公共交通のために、何を今年度実施していくのかを説明してもらい、その上で実施事業は0だとしてもらいたい。そうしないと、本当に0で大丈夫なのかと不安になる委員の方もいるかと思う。先程、市民バスの再編については令和6年度から始めないと間に合わないという話もさせてもらった。交通計画策定後の初めての会議でもあるので、事業計画（案）を箇条書きでもいいので、作成してもらい、それから予算（案）の議決を取られた方が、委員の方々の理解も深まると思う。これは要望としてお願いしたいと思う。

事務局： ご意見のとおりだと思います。大変失礼しました。交通計画では市民バスの再編を令和6、7年度の2年で行うこととなっている。市民バスについてはダイヤやルートの調整が必要なので、今年度中に素案を作成したいと考えている。デマンド交通の再編についても、同じようなスケジュールで考えているので、会議の中で検討いただき、今年度中に素案を作成し、来年度は細かい調整等を行っていききたいと考えている。

委 員： もし、市民へのアンケート調査を行うのであれば、政策決定へのウェイトが高いので、有識者が参加している交通会議で諮った上で実施してもらいたい。

事務局： 貴重なご意見、ありがとうございます。今後、検討してまいります。

委 員： ある程度想定できる内容で予算額を出した方がよいのではないかと。予算を立てて、執行状況を監事が監査して成り立っている。なので予算が0円なのはあり得ない。業者に委託するのであれば、業者が実施した内容を交通会議で報告した方がよい。とにかく、大枠の予算があって、執行できなかったものは、0にしても構わないが、実際の決算額がどうなるのかわからないので、予算額は出してもらいたい。

事務局： 交通会議の会計は、交通計画を策定するためのものであると、令和6年度については0円で計上している。

委 員： 次第には、茂原市地域公共交通会議令和6年度予算と書いてあるが、計画策定に係る予算なのでそれ以外のことは含まれないと事務局から説明があったが、今の質疑の内容は、計画策定以外の内容についてのことであり、お互いに誤解が生じているよう。その辺を考慮して質疑応答した方がよいのではないかと。

事務局： 委員報酬等については、市の予算から直接支払っているため、交通会議の予算には計上して

いない。

事務局： 補足説明として、予算については、交通計画を策定するためだけの予算である。その他の会議を開催するに当たっての予算は、市の一般会計で別口に予算を持っているので、交通会議では報告していない。昨年度に交通計画を策定したので、令和6年度については0円で計上している。

会 長： 交通計画に記載されている事業の実施については、今年度0円であるが、報酬等については、市の予算から出ているということで間違いないか。

事務局： その通りです。

委 員： 次第には茂原市地域公共交通会議予算とあるので、紛らわしいのではないかと。報酬やお茶代は市の予算から出ているので、交通会議の予算には含んでないとのことだが、そうすると、議事のタイトルと少し合わないのではないかと。交通計画策定ためのものであるならば、タイトルを変えた方がよいのではないかと。

事務局： 国の補助金を貰うに当たって、補助対象事業者が法定協議会となっている。法定協議会とは茂原市地域公共交通会議のことなので、その会計を今回の会議で報告している。

委 員： 22自治体の委員を務めているが、このような例は初めてである。会議体としている以上は、費用等を計上しないといけない。お茶も飲むに飲めなくなってしまう。市からの負担金として、入れていただき、そこから通信費や事務費、その他会議費用がかかっているということを記載してもらわないと、会議が1度も開催されていないことになってしまう。予算（案）については差し替えて頂き、書面会議で議決していただくのがよいのではないかと。

会 長： 市の予算と交通会議の予算がわかるように作成してもらいたい。

事務局： 市の財政部局と協議し、書面での決議とさせていただきたい。

会 長： 事務局から書面での決議にしたいと提案があったが、よろしいか。
(全会一致で異議なし)

(4) 地域公共交通確保維持事業（地域内フィーダー系統及び地域間幹線系統）

<質疑>

委 員： 3点ある。1点目は、資料4にはタイトルがあるのに資料3にタイトルがないのはなぜか。2点目は、資料3の2ページ目の2.（1）事業の目標について、本日の会議でデマンド交通の乗合率の向上という話が出たので、盛り込んでどうか。3点目は、資料4の6ページの右下に市区町村の負担割合があるが、これは茂原市だけの負担額なのか、関係市町村も含まれているのか。

最後に質問ではなく意見になるが、先程、市の一般会計から支出されるものは交通会議の予算に含んでいないと説明があったが、国の補助金の運用が、地域公共交通会議に会計窓口を置いて、一度そこに歳入として入れてもらって、事業者に支出するように変わってきているという話を聞いた。今後は国の財政運用の指針に合わせて進めていってもらいたい。

事務局： 1点目について、資料3については、国の記載例では特にタイトルの記載がなかったので、入れていない。資料4については、各自治体の交通会議での審議用として、取りまとめをしている千葉県が作成したものであるもので、違いが出てしまった。

2点目について、交通計画に記載がある目標について抜粋することとなっているので、乗合

率については記載していない。

3点目について、市区町村の負担額については、関係市町村全体での負担額であり、資料に記載にある金額を、茂原長南線であれば、茂原市と長南町、茂原ロングウッド線であれば、茂原市と長柄町が負担することとなる。負担割合については、今後、乗降調査を行い利用者数に応じて負担割合を決定する。

委員： タイトルについては、他の自治体では記載しているところが多いので、記載した方がよろしいかと思う。2点目については、交通計画から抜粋しているということだが、交通会議での承認を得るということを鑑みて、議論の中での目標も記載してよいのではないかと思う。3点目は、負担割合が決定したら、交通会議の中で報告していただければ、地域間幹線系統が国・県・市町村がそれぞれ補助しているということがわかり、理解が深まるのではないかと思う。事務局からの答弁はいらないので、意見として受け止めて欲しい。

委員： 議事の内容に直接関係はないが、関連する事で申し上げたい。先程、今年度と来年度で市民バスとデマンド交通の再編を検討していると説明があったが、自信を持ってフィーダー系統の補助を受けて地域交通が動いているということを知っていく意味でも、もし調査をされるのであれば、例えばデマンド交通であれば、資料1の行き先の割合の中に、本納駅2.3%と記載があったが、行き先だと単トリップのデータしかないので、実際にバス停や鉄道駅を介して、どのような移動に繋がっているのか、トリップの連続性がどのようなネットワークに繋がっているのかを調査してもらえるとよい。ただ、実際にやってみるとなかなか思ったようにいかないので、地域公共交通の維持・確保の視点だけで、国の補助要件は整うので、それで行こうというのであれば、それはそれで構わないが、事務局として、今動いている公共交通をどう改善していくかといった時の一つの指針にはなるので、是非そういった調査を組み込んでいただければと思う。要望として受けてもらえればと思う。

事務局： 貴重なご意見、ありがとうございます。今後、検討します。

委員： 資料4の6ページの一番下の段の右側3行について、国の様式に元からあるものではなく、県の補助要件に該当するかどうかの計算様式を追加したものになるので、国に申請する際は不要となる。

会長： 国・県・市でそれぞれ様式や考え方が違うので、まとめるのは難しいと思うが、本日いただいた意見を基に、修正したものを提出してもらいたい。

以上の内容で賛成の方は挙手をお願いします。全会一致ということで、設置要綱第7条第4項の規定により承認されたものとします。

7 その他

8 閉会 午前11時40分